

新型コロナウイルス感染者発生施設アンケート調査結果（まとめ）

福祉長寿局福祉指導課

1 目的

第6波に備え、緊急で感染症が発生した施設を対象に各種調査を行いとりまとめたことから、広く福祉施設に情報を提供し、クラスターの発生防止につなげるものである。

2 アンケート調査の概要

区分	概要	
クラスター発生施設への調査（アンケート用紙）	目的	緊急に福祉施設における 感染対策の課題を把握
	方法	アンケート用紙による調査（R3.10月）
	対象	クラスターが発生した29施設
	項目	感染対策に係る課題や対策状況など別添結果のとおり
クラスター発生施設への調査（聞き取り）	目的	感染発生時を振り返ってもらい、反省点等を把握
	方法	施設長等への電話による聞き取り調査（R3.12月）
	対象	クラスターが発生した10施設
	項目	初動対応、ゾーニング、誹謗中傷など別添結果のとおり
クラスターが発生しなかった施設への調査（アンケート用紙）	目的	感染者は発生したが、 クラスターにならなかった要因を把握
	方法	アンケート用紙による調査（R3.12月）
	対象	感染者が発生した東部・中部・西部各5施設
	項目	研修、訓練、初動対応、ゾーニングなど別添結果のとおり

3 調査結果の概要

調査項目	クラスターが発生した施設 （聞き取り調査）	クラスターが発生しなかった施設 （アンケート用紙調査）
感染対策/ 研修/ 想定訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・かぜ症状があったが出勤してしまった。コロナは2日前から感染させるので、気づいた時ではもう遅い。 ・マニュアル等で座学研修を行ったという程度であった。研修を通しての全職員の正しい感染知識の習熟しないと考える。 ・防護具教育は実施していたが、脱ぎ方にまで比重をかけていなかった。 ・防護具着脱知識の研修は行っていたが、実技訓練までは実施していなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の100%が、症状がある場合に休むこと、マスク着用、食事や排泄ケアごとに手洗い、アルコール消毒を徹底し、体液等に触れる場合、ディスポ手袋を着用してケア。 ・回答者の79%が、3回以上の研修を実施している。 ・回答者の64%が、個人防護具の着脱手順の理解についての職員理解率は80%以上と判断している。 ・回答者の56%が、1回以上の想定訓練を実施している。

調査項目	クラスターが発生した施設 (聞き取り調査)	クラスターが発生しなかった施設 (アンケート用紙調査)
応援体制/ 備蓄/ 事業継続 計画 (BCP)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染者が発生した後に、他の施設からの職員応援を考えた。 ・手袋などの備蓄が少なく、手袋、マスク品薄もあり、揃えられない状況であった。(第3波) ・誹謗中傷の相談窓口を法人の別所に集中させる等を盛り込んだBCPを策定するべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の79%が、応援体制を整備している。 ・回答者の57%が、防護具の備蓄は十分としている。 ・回答者の50%が、感染症対応BCPを整備している。
感染者発生 時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・感染者発生時は指定病院に入院と考えていたので、施設内療養は想定していなかった。 ・看護師が不在で管理者がリーダーとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の79%が、職員へ初動対応方法を周知していた。 ・回答者の86%が前もってリーダーを決めていた。
陽性者等の コホート	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPはなく、ゾーニングは考えていた程度。3Fに感染者等をまとめ、レッドゾーンとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の57%が感染発生当日に個室、レッドゾーンへ移動させた。
レッドゾーン 設定	<ul style="list-style-type: none"> ・多床室1つを隔離部屋として想定していたが、職員の濃厚接触者が多く、待機までは想定していなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の100%が、考え方や設定の検討を行っていた。
交代要員/ 他所からの 応援	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅に高齢者がいる等の理由がある職員以外はレッドに入った。 ・交代要員の手がなかなか上がらなかったのので、同じ職員で回した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の50%で交代要員がすぐに決まった。 ・回答者の21%で他所から応援員があった。
廃棄物の 引取拒否	<ul style="list-style-type: none"> ・引取拒否があった(第3波)。 ・契約単価は高かったが、感染性廃棄物業者と新たに契約して運搬してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の79%で引取拒否はなかった。
誹謗中傷への 対応	<ul style="list-style-type: none"> ・HPに感染情報を掲載しなかったことから、なぜ公表しないのかなど言われた。家族からは心配して電話がかなりあった。家族にはまず電話し、手紙を都度出したり、入居者本人にも電話に出てもらった。 ・住民・地域の安心のため公表したが、TV取材が来るし、大変な思いをした。 ・ネットで誹謗中傷を浴びた。1日中電話対応の日があった。正確な情報を積極的に発信し 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の14%で誹謗中傷があった。 ・回答者の79%が、家族などへ情報を正確に流せた。 ・回答者の50%が担当者を決めてあった。 ・窓口は、施設長とし、家族からの苦情については謝罪に出向き対応した。 ・問合せには丁寧に対応、その後職員で情報を共有した。

調査項目	クラスターが発生した施設 (聞き取り調査)	クラスターが発生しなかった施設 (アンケート用紙調査)
	ないと疑われ、憶測に尾ひれがついて伝わってしまうので直接出向いて家族に説明すれば良かったかもしれない。	
職員のメンタルヘルス	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で情報を共有し、正しい情報を伝えることが大事。 ・法人内でも励ましの寄せ書きやOBの差し入れもあった。 ・気持ちを支える言葉かけが重要。ラインアプリを使って、レッド内とレッド外情報を可視化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日ミーティングを開催し、正しい情報を提供した。 ・重要な情報は掲示した。 ・職員へメッセージ付きの差し入れをしてコミュニケーションを図った。
クラスターを阻止できた理由	—	新型コロナウイルス感染症の基本情報や備えることの必要性をしっかりと職員に伝え、防護服の着脱方法などの実践的研修も実施していたため、「陽性者」がでて、慌てず対応することができた。

4 調査結果の考察

クラスターが発生しなかった施設は、クラスターが発生した施設と比べると、症状があるときは休むなど、基本的な感染対策が徹底されていたり、感染者が発生した時を想定し、感染者発生時対策を前もって検討したり、個人防護具の着脱訓練を行っていたことがわかる。

感染者が発生しても、クラスターを発生させないためには、危機管理意識を職員間で共有し、ルールを徹底すること。また、クラスターが発生した施設からも、振り返りの中で標準予防策（スタンダード・プリコーション）が一番大事と言っている。

さらに、感染知識習得については、全職員が理解する必要があることから、全職員に研修参加の機会を与えて、一つ一つの対策について周知徹底しなくてはならない。全職員が実技訓練やシミュレーション訓練を行うことで、職員一人一人が感染対策に自信を持つことができ、感染者が発生したとしても、施設内での感染拡大を防ぐとともに、職員のメンタルヘルスにもつながる。